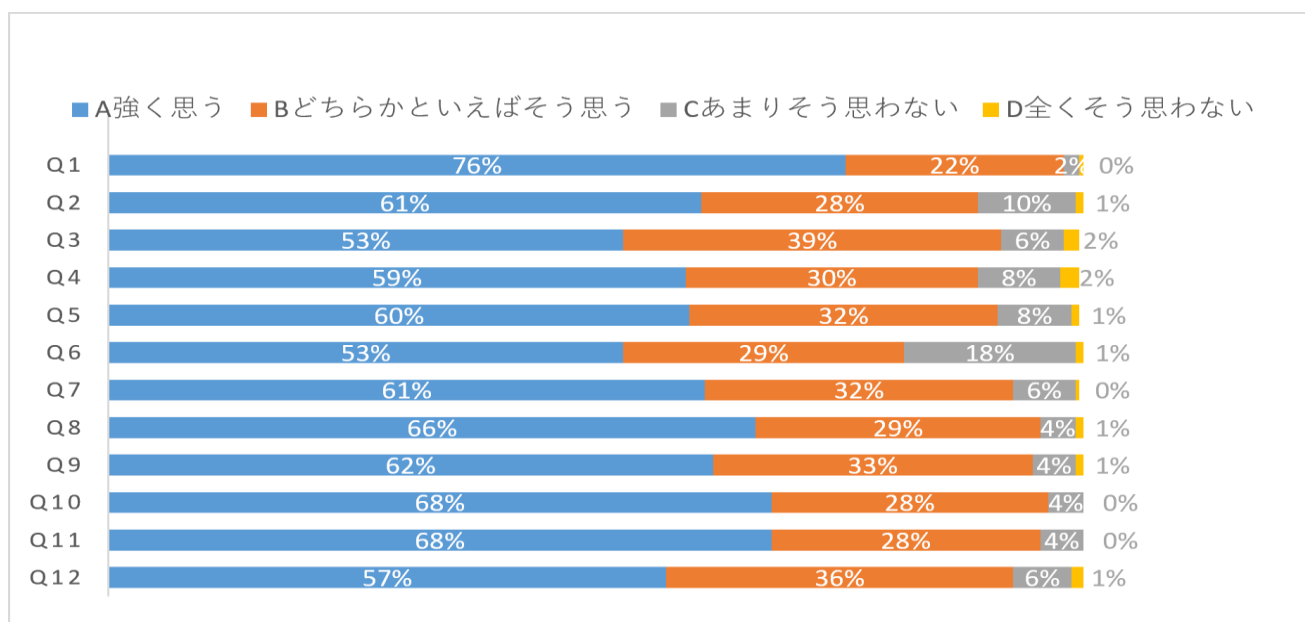


令和7年度 保護者学校評価アンケート結果報告

実施時期 令和8年1月19日～1月26日



番号	設問内容
Q1	子どもは幼稚園に行くことを楽しみにしている。
Q2	子どもは、家で幼稚園のことや先生のことを話している。
Q3	幼稚園は、保護者同士が関わり合える場になっている。
Q4	幼稚園はけがをしたときや問題が起きたときなど、丁寧にわかりやすく状況を伝えている。
Q5	幼稚園は、子どもの興味や関心、育ちに応じた園行事を実施している。
Q6	幼稚園は、預かり保育や園庭開放など、積極的に子育て支援を行っている。
Q7	幼稚園は、キリスト教保育の考え方を保護者と共有している。
Q8	幼稚園はモンテッソーリ教育の考え方を共有し、園児一人ひとりが自主的に活動できる保育をしている。
Q9	教員は、子どもをよく理解し、一人ひとりの性格や特性などに配慮しながら保育している。
Q10	幼稚園は、建物や遊具などを、子どもに合わせた安全対策をしている。
Q11	幼稚園は、子どもの食に対する関心を育てている。
Q12	幼稚園は参観・懇談会等を積極的に行い、園の様子を適切に伝えている。

【学校評価を受けて】

本年度に実施いたしました保護者学校評価アンケート（全12項目・4段階評価）につきまして、A「強く思う」およびB「どちらかといえばそう思う」を肯定的評価として集計・分析を行いました。その結果、すべての項目において肯定的評価が8割以上となり、本園の保育内容および園運営全般が、保護者の皆さまから総じて高い評価を受けていることが確認できました。

まず、子どもの園生活への満足度に関する項目では、「子どもは幼稚園に行くことを楽しみにしている」が98%、「子どもは家で幼稚園のことや先生のことを話している」が89%の肯定的評価となっており、園での生活が子どもにとって安心感と充実感のあるものとなっている様子がうかがえます。これは、日々の保育実践や教職員の丁寧な関わりが、子どもの情緒の安定や前向きな気持ちにつながっている結果であると考えられます。

また、保育内容や教職員の対応については、「子どもの興味・関心や育ちに応じた園行事を実施している」が92%、「教員は子どもをよく理解し、一人ひとりの性格や特性に配慮しながら保育をしている」が95%と、非常に高い評価を得ています。さらに、「けがや問題が起きた際に、丁寧で分かりやすく状況を伝えている」についても89%の肯定的評価が示されており、保護者との信頼関係が一定程度築かれていることが数値から読み取れます。

生活環境および安全面に関しては、「建物や遊具など、子どもに合わせた安全対策をしている」が96%、「子どもの食に対する関心を育てている」が96%と、極めて高い評価が得られました。これらの結果から、子どもの生命や健康を守るための環境整備、ならびに日常生活を大切にした保育が、保護者から高く評価されていることが明らかになりました。

本園の教育的特色に関する項目では、「キリスト教保育の考え方を保護者と共有している」が93%、「モンテッソーリ教育の考え方を共有し、園児一人ひとりが自主的に活動できる保育を行っている」が95%と、いずれも高い肯定的評価を得ています。一方で、A評価（強く思う）の割合に着目しますと、理念や教育方針の理解が、必ずしも十分に深まっているとは言い切れない面もあり、今後は日々の保育と教育理念とのつながりを、より具体的に伝えていく工夫が必要であると受け止めています。

一方、相対的に肯定的評価が低かった項目として、「預かり保育や園庭開放など、積極的に子育て支援を行っている」は82%にとどまっており、他の項目と比較すると数値に差が見られました。また、「保護者同士が関わり合える場となっている」（92%）や、「参観・懇談会等を通して園の様子を適切に伝えている」（93%）についても、肯定的評価は高いものの、A評価の割合が相対的に低く、取り組みの内容や意義が十分に実感されていない可能性が示唆されます。

これらの結果から、本園の顕著な課題として、①子育て支援の内容や目的が、保護者に十分伝わりきっていない点、②保護者同士の関わりや園への参画について、より主体的に関われる仕組みづくりが求められている点、③教育理念や保育のねらいについて、日常の具体的な保育実践と結び付けた発信が十分でない点が挙げられます。

今後は、これまで高く評価されてきた「子どもが安心して楽しく通える園づくり」や「安全・生活面を重視した保育」を引き続き大切にしながら、保護者への情報提供の方法や対話の機会を見直し、園の取り組みや教育方針がより深く共有されるよう努めてまいります。

神戸海星女子学院 マリア幼稚園